

●○ 研修会特集 公開講座 ○●

デジタル情報サービスの実際

熊谷 智恵子

I. はじめに

デジタル情報・資料の普及が図書館の運営を大きく変化させています。よく言われているように、デジタル技術が「壁のない図書館」を可能にしており、実際に「壁のない図書館」に近づけている図書館が出てきています。ここで言う「壁のない」というのは、図書館へ行かなくても図書館の機能にアクセスできるということです。

図書館資料のデジタル化を具体的に示しました(図1)。本稿では、病院図書館デジタル化の実際とそのサービスについて考えてみます。

- 電子ジャーナルは最新の情報が入手可能
出版とのタイムラグがない
STM分野は電子ジャーナル化が進んでいる
- 迅速な発行は研究コミュニケーションに不可欠
プレプリント・アーカイブ、e-page など
- オリジナル資料のデジタル化が可能
- 二次資料サービスとのリンクが可能

図1 デジタル化によって

II. 図書館のデジタル化

1. 図書館資料

(1) 一次資料

図書館資料のデジタル化に伴って、情報の供給形態が変わります。これまで雑誌を購入し、受け入れ・整備し、合冊製本、保管していたも

のが、デジタル化によって、出版社のサーバへ直接アクセスすることになり、これにより雑誌受け入れの手間は省け、製本は不要になります。保管場所に頭を悩ます必要もなくなります。

また、図書館資料の所有形態も変わってきました。雑誌を買って「所有する」から、「利用する権利」へと変わります。電子ジャーナルの購読とは「データへのアクセス権」を得ることです。契約が切れるとほとんどの出版社では契約年へのアクセスが不可能となります。つまり、2002年は契約をしていますが、2003年の契約を更新しないと2002年の「データへのアクセス権」が失われることになり、図書館側へ全く情報が残らないこととなります。勿論、付随データとしてCD-ROM版などを購入できる場合もありますが、全てにCD-ROM版があるわけではありません。

電子ジャーナルは出版とのタイムラグもなく、最新の情報が入手可能です。迅速な情報入手は、研究コミュニケーションに不可欠です。そのため、STM分野と呼ばれる、科学(Science)、技術(Technology)、医学(Medicine)分野の電子ジャーナル化には目を見張るものがあります。大手出版社のほとんどが電子ジャーナルを発行しており、Web上に沢山のコンテンツを置くようになっています。しかも、論文単位、雑誌単位でのリンクが縦横に張られています。インターネットの普及が学術雑誌のデジタル化に大きな影響を与え、リンク機能がより一層のWeb化を進めています。

KUMAGAI Chieko

虎の門病院図書館

kumagaic@topaz.ocn.ne.jp

(2) 二次資料

PubMed や JOIS、医学中央雑誌 Web 版のような二次資料・二次情報のサービスも Web 上に置かれるようになり、タイムラグも短縮されて来ています。

これらの二次資料は、1985 年頃から専用回線による JOIS のオンライン検索が始まりました。しかし、この頃にはまだインターネットは普及していません。1993 年頃から文部省(当時)主導で大学図書館を中心にインターネットが導入され始めました。その後、1996 年から JOIS が Web で使えるようになり、Telnet によるコマンド検索が可能になりました。その後 1997 年から EnjoyJOIS がスタートしました。同 1997 年 6 月から PubMed が公開されました。2001 年には医学中央雑誌 Web 版がスタートしました。

現在、PubMed は検索結果のデータと多くの電子ジャーナルがリンクを張っています。他の検索ツールでも同じようにリンク化が進んでいます。国内の検索ツールでも一次資料とのリンク張られるのはそう遠くはないでしょう。

2. 図書館の対応

図書館資料がデジタル化されると、利用者への Web 情報のサポートが必要になります。その結果、図書館員の業務も変わり、図書館員に必要とされるスキルが変化してきます。図書館員としての専門性の他に、コンピュータリテラシーや情報リテラシー、学術情報流通に関する知識、電子ジャーナルの知識・コンテンツの選定能力、ユーザーの情報行動、著作権および電子著作権についての知識など、これまでなじみのなかった分野の知識も必要になっています。

電子ジャーナルにはコンソーシアムという価格体系があります。コンソーシアムとは、ネットワークや地域などを単位とした電子ジャーナルの共同利用・共同購入を意味しています。コンソーシアムへの参加機関がそれぞれの条件に合うような有利な価格やアクセスを手にするために、利用条件について共同で交渉するもので

す。提供者側は、多くの利用者に使ってもらうことを前提にしており、参加機関が増えることでコンテンツの充実をはかり、さらにアクセスを増やしたいと考えています。コンソーシアムの利用は病院図書館にとっても検討する価値のあるものです。

3. デジタル化時代の図書館サービス

図書館サービスの基本は利用者のニーズに対応することです。利用者のニーズを促えて、利用者の求める情報を効果的に提供することが大事です。また、情報流通のスピードが早まる中で、デジタル化に対応するサービスのひとつは、電子ジャーナルそのものの提供です。例えば、Circulation には e-page というものがあります。Circulation は冊子体購読者が追加料金なしに電子ジャーナルにアクセスすることができます。図書館員がこの登録を怠ると、利用者は Web コミュニケーションへ参加できず、有益な情報を入手できなくなります。

電子ジャーナルを購入している場合や、無料の電子ジャーナルを登録している場合には、それぞれの電子ジャーナルへアクセスする手順や、自館で利用できる電子ジャーナル一覧を作成し、利用者に知らせることも重要なサービスです。

これまで積極的に図書館を利用してきた人は、デジタル情報へのアクセスも積極的に行う可能性があります。彼らに向けて、図書館で使える二次資料やそれから先にリンクする方法を教えるなど、図書館からの情報発信を積極的に行う必要があります。

このように、Web 情報のサポート、情報発信基地としての図書館の役割は、コンテンツである電子ジャーナルとメタデータである二次資料を結びつけるものであり、図書館はゲートウェイ機能を果たすことになります。

それでは次に、デジタル化を少しずつ始めた虎の門病院図書室でのデジタルサービス、Web 情報へのサポートの取り組みを紹介しながらサービスの実際を考えてみます。

Ⅲ. デジタル情報サービスの実際

1. サービスの基盤

虎の門病院図書室（以下、当図書室）は、国家公務員共済組合連合会（以下、連合会）の全国 36 病院のセンター図書館として機能しています。2002 年 7 月現在、約 370 タイトルの洋雑誌と約 200 タイトルの和雑誌を定期購読しており、製本和洋雑誌約 55,000 冊、図書約 16,000 冊を所蔵しています。これらの資料をもとに、連合会病院の医師約 1,700 人、看護師約 6,500 人に対して、文献複写・文献検索などを中心としたサービスを行っています。所蔵していない文献については NACSIS-ILL や JMLA へ加入しており、そのネットワークから ILL で文献を取り寄せて、希望者に提供しています。

職員は 6 名でそのうち司書は 2 名です。雑誌管理全般に関連して電子ジャーナルの管理をひとりの司書がやっています。

2. オンラインジャーナル導入の経緯

当図書室では、1997 年からインターネットに接続できるようになりました。そこで、雑誌を講読していると追加料金なしに利用できるフリー・ジャーナルを確認し、その都度登録をしてきました。

しかし、フリー・ジャーナルだけでは利用者の要求に応えられません。そこで、1999 年 2 月からは、ProQuest (Medicine, Nursing, Health Science 約 300 タイトル) を導入しました。その後、SD21 (ScienceDirect の試行版・2001.12 月まで)、Cochrane Library、Synergy および MD Consult を導入しています。

3. 電子ジャーナルの使い分け

当図書室では連合会病院全体へのサービスを主目的にしていますので、電子ジャーナルについても連合会病院全体での利用を基本に考えています。そこで、ProQuest は連合会病院向けに複数のパスワードを発行してもらっています。フリー・ジャーナルの場合では、購読雑誌の契約主体が連合会ですので、連合会病院からの文

献複写申し込みに対応しています。

しかし、全ての電子ジャーナルを連合会病院全体で使うということになると、契約の金額が莫大になります。そこで、Cochrane Library や Synergy 病院向けコレクション、MD Consult は、初めての試みでもあり、虎の門病院内の職員用に購入しています。

4. デジタル二次資料のコンソーシアム

二次資料は、病院図書館にとって一次資料とともに臨床医学・医療を間接的に支える重要かつ必須のツールです。他の資料をおいてでも購入すべきものです。また、危機管理という視点からすると、予算が許すならインターネットだけに頼りきらないで、CD-ROM などでも揃えておきたいものです。当室では、CD-ROM の二次資料もまだ使っています。

EMBASE.com、MEDLINE CD-ROM 版、医学中央雑誌 CD-ROM 版の他に、連合会病院全体を対象に 2002 年から始めた JOIS 病院向け固定料金制（以下、JOIS）と医学中央雑誌 Web 版（以下、医中誌 Web）のコンソーシアムがあります。

これらのコンソーシアムは、JOIS と医中誌 Web の利用について、それぞれのデータベースごとに参加病院を募り、当図書室が窓口となって連合会の参加病院をまとめたものです。今年はそれぞれ 12 病院の参加で始まりました。

コンソーシアムの取り組みは初めてのことで、以前より連合会病院の図書室に対して MEDLINE CD-ROM 版の貸出しをしており、毎年 3 月に貸出し希望調査を行っていました。今回はその延長として、国内二次資料データベース利用のコンソーシアムへの参加調査をし、代理店と価格交渉をまとめてきました。

コンソーシアムの利用は、参加病院にとって経済的に有利になるだけではありません。通常は契約口数しかアクセスできないところでも、コンソーシアムにすることで、同時アクセス数を増やすことができるので、アクセスオーバーの機会が少なくなるという利点もあります。

5. Web 情報のサポート

フリー・ジャーナルで問題になるのは、しばしば URL が変更になり、アクセスが不可能になることです。そのため定期的に URL のチェックを行い、変更が出た時点で利用者に案内しなければなりません。また、突然サービスが停止されるということもあります。これらの情報は速やかに利用者に伝えなければなりません。

一方、当然のことですが、有料の電子ジャーナルでは突然の URL 変更やサービス停止などということはありません。事前にメールで案内が届きますので、利用者へ転送したり、メールに添付して案内することができます。また、ほとんどの電子ジャーナルでは利用統計がとれますので、必要に応じて利用者に公開することができます。

デジタル資料・Web 情報のサポート(図 2)は新たな仕事ですが、利用者からの反応が早く良好です。特に *Library News Magazine* (図 3) (2001 年 10 月 1 日発行開始) を発行して、メールで Web 情報をすばやく知らせるようにしました。発行は不定期で、登録をした方々にだけ送ることにしていますが、着実に購読者が増えています。

- 連合会病院利用者へのサポート
オンライン登録サポート、電子ジャーナルサイト案内、二次資料情報の提供とコンソーシアム形成、メールによる文献受付 など
- 虎の門病院利用者へのサポート
電子ジャーナルサイト一覧の配布、電子ジャーナルアクセスのサポート、二次資料へのアクセス案内、パスワードの管理、最新の Web 情報案内、「Library News Magazine」(メールサービス)の発行 など

図 2 Web 情報のサポート

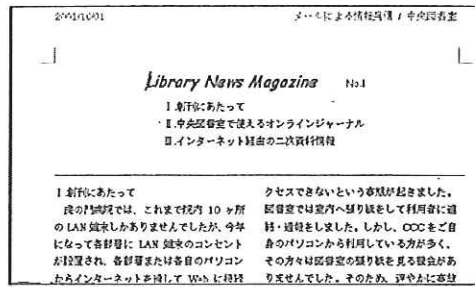


図 3 Library News Magazine

IV. おわりに

インターネットの普及は、学術雑誌の形態や利用の仕方、私たちの仕事の環境を大きく変化させています。こうした情報環境の変化に対応することに苦慮しているのは図書館員だけではないでしょう。情報の利用者も多くの戸惑いを持っていることでしょう。図書館の規模や組織の違いはありますが、図書館利用者の求めるものを理解し、その希望を積極的に組み込んで図書館サービスを行うことが大事です。今後は、情報サービス・情報発信基地としての図書館を目指して行きたいものです。

(本稿は、第 9 回日赤図書室協議会での講演に加筆したものである。)

参考文献

- 1) 熊谷智恵子：オンライン導入事例 in シンポジウム 21 世紀の病院図書室のために。日本病院会雑誌 2001 ; 48(5) : 99-103.